

教育目標『夢と潤いのある学校』



夢と潤い

令和5年度
学校だより 第5号

旭川市立広陵中学校
令和5年8月31日

発行責任者 校長 千葉 雅樹

素敵なことがありました！

校長 千葉 雅樹

30日間の夏休みが終わり、8月21日（月）からいよいよ2学期が始まりました。2年生の宿泊研修、広陵祭（学校祭）、新人戦、そして3年生は進路決定に向けての準備が本格化します。ぜひ、子どもたちが明るく元気に生き生きと学校生活を送ることができるよう全職員で頑張っていきます。保護者・地域の皆様、よろしくお願いたします。さて、1学期の終業式に私は、

- ☆君たち一人一人が広陵中の看板を背負っているということを忘れずに、「知恵と勇気と優しさ」で行動してほしい
- ☆夏休み中、できれば、寝る前に一日の自分の行動を振り返り、自分の良かったところを記録してほしい
- ☆取り返しのつかない失敗をしないよう、自分の命に関わる危険な行為はしないでください



という内容のお話をしました。

そんな夏休みのある日、地域のおばあさんから以下のようなお電話をいただきました。



『先週の土曜日（8月4日）の夕方、私の娘（母親）が3歳の子どもをベビーカーに乗せて散歩をしていたときに、子どもがけいれん発作を起こし意識を失いました。

そのとき、たまたま通りかかった二人の子どもたち（本校の2年生）が、動揺している娘（母親）を見かけ、娘（母親）の携帯の充電がなくなりそうだったため、子どもたちがスマホから119番に連絡してくれました。

その子どもたちは、救急車が来るまで、娘（母親）と子どもを励ましてくれ、救急車が到着後も救急隊に事情をきちんと説明するなど対応もすばらしく、二人のおかげで子どもの命が助かりました。このご時世、こんなすばらしい子どもたちがいることに感動し、学校に電話をしました』

とおばあちゃんは、お話していたそうです。

このお話を聞いたとき、正直、「すごい！ 知恵と勇気と優しさだ！」と思いました。この2年生の二人をはじめ、本校の子どもたちは確実に「生きる力」を身に付け始めていると実感し、うれしく思いました。

そして、始業式には、上記のことを紹介した後で次のようなお話をしました。（要約）
「今の時代、色々な場面で時間を効率的に使うタイパ（タイム・パフォーマンスの略）が求められていますが、学校生活においてもクロノス時間（時計が刻む時間）の中でタイパを考え行動することは大切です。しかし、それだけではなくカイロス時間（心理的時間）を意識してほしい。時が過ぎることを早く感じたときには、集中して取り組んでいる証拠。また、時が過ぎることを遅く感じているときは、退屈なとき、つらいとき、悲しいとき。そんなときは、それを解決するために、精一杯もがいてほしい。そしてやるべきことをやったあとは、時の流れに身を任せ、ゆっくりと時間を過ごす……。

タイパだけでなく、カイロス時間を意識し、心と体を大切に学校生活を送ってくださいというお話をしました。

何事も効率を求められる時代の中、カイロス時間（心理的時間）を意識し、ときにはゆっくりと時間を過ごすことも心と体にとっては、大切ではないかと私自身感じています。

最後になりますが、保護者・地域の皆様におかれましても、こんな時代だからこそ、どうかご自愛ください。

中体連全道・全国大会、吹奏楽コンクール結果！！

<男子ソフトテニス部>

☆全道大会

個人戦 2位 沖中瑛太・西原蒼太(全国出場)

☆全国大会

個人戦 1回戦敗退

<女子ソフトテニス部>

☆全道大会

個人戦 1回戦敗退 高松姫依・貴田彩羽

<女子卓球部>

☆全道大会

個人戦 ベスト16 中田美聖

<柔道>

☆全道大会

個人戦 1回戦敗退 蛭澤真之助

<陸上部>

☆全道大会

棒高跳び	予選敗退	菅原空良
走幅跳	予選敗退	大槻実里
四種競技	16位	齋藤春磨

<吹奏楽部>

北海道吹奏楽コンクール旭川地区予選
中学校B編成の部 銀賞



全国大会を振り返って

「全中初出場」 男子ソフトテニス部
3年4組 沖中 瑛太

僕はこれまで全国大会を目標に練習に励んでいました。今回その練習の成果が実り達成することができました。全国大会に出場するにあたって2つのことを意識して行きました。

一つ目は、いつも通りのプレーをすることです。初めての全国大会なので会場の雰囲気、にのまれそうになったり、北海道とは違う暑さですごく身体もしんどかったけど、先生からの声かけやペアとお互いに声をかけ合い、日頃部活でやってきた練習を思い出し、緊張したけど平常心でいつも通りのプレーができてよかったです。

二つ目は、楽しくプレーをすることです。中学校最後の大会を緊張でかたくなりいつも通りのプレーができなくなったり、冷静な判断ができなくなって負けて後悔したりするより全国の舞台を思い切り楽しもうと考えて臨みました。ですが、実際試合が始まると、観客も多く緊張し冷静な判断もできなくなるなど、楽しくプレーすることがあまりできず、難しさを体感しました。

今回ベスト8を目指して臨んだ大会でしたが、序盤でまだ会場の雰囲気に慣れておらず、ミスが重なってゲームを取られてしまったけど、中盤で体が慣れて自分たちのテニスができるようになり、だんだんと追いつき、最終ゲームまでねばりましたが、集中力が途切れスタミナもなくなり、粘りきることはできま

せんでした。結果は初戦敗退となってしまいました。この貴重な経験を通して学んだことを忘れずに、さらに次のステップで戦えるよう練習していきたいです。

「感謝の気持ち」 男子ソフトテニス部
3年1組 西原 蒼太

中学校で初めての全国大会は、1回戦敗退となり非常に悔しい結果で終わりました。試合の内容はあまり緊張せず楽しんでできましたが、雑なミスや試合の流れを考えて動けず、勝てる試合なのに、ファイナルで惜しくも敗れてしまいました。その後、愛媛県を観光して、しまなみ街道などを見に行き楽しかったです。この悔しさをバネに、高校生という新たな舞台に立ち、今度はインターハイで勝ち進めるように、日々の努力を積み重ねて目標を忘れることなく精進していきたいです。

また親がいつも送迎してくれたりするなど、一番近くで支えてくれて応援してくれたので日頃の感謝を言葉にしてきちんと伝えたいです。そして先生方やコーチは、ソフトテニスを通して技術以外に人としても成長させてくれて感謝しかありません。

最後に応援してくれた皆さん、本当にありがとうございました。

